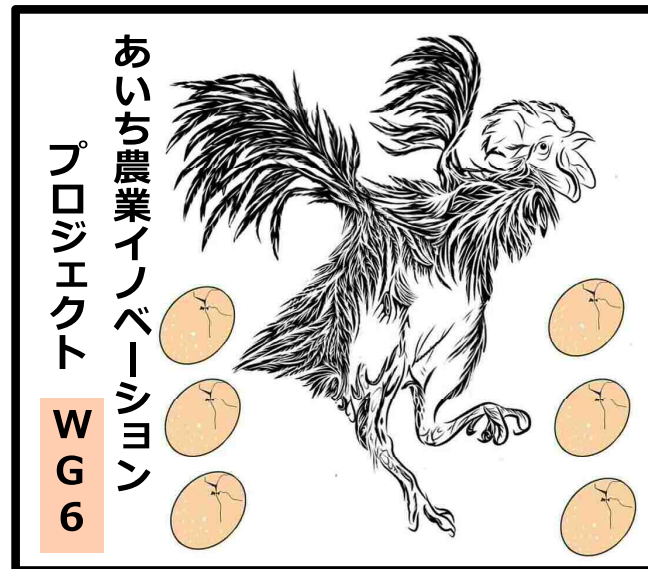


WG6 デジタルで結ぶ スマートサプライチェーンの実現


提案募集課題数
計2課題




分科会名
サプライチェーン
分科会

サプライチェーン分科会 解決案一覧

提案募集番号6-1

 アイトラッキングデータ活用による品種開発と
販売戦略

提案募集番号6-2

 環境に配慮した生産工程であるのことの
PR用アプリケーション開発



愛知県の
産地の現状

🍁消費者ニーズをふまえた新品種開発や販売戦略策定には消費者の購買行動の調査が必要である。

購買時に重視する事項はアンケート調査によりデータ収集できるが、実際の購買行動は客観的データが収集しづらい。

※愛知農総試が新品種開発を行う主な園芸作物の産出額・栽培面積は、イチゴは産出額85億円・261ha、イチジクは産出額19億円・119ha（2019年度の統計データ）



農総試での
関連研究成果

🍁アンケート解析によりナシの果実に求める消費者の意識を把握した。

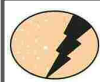
🍁テキストマイニングの技術を活用し、アジサイの品種に求める消費者の意識を把握した。



解決したい
困りごと

🍁実物を目の前にした時の購買行動をアイトラッキング(※)を活用してデータ収集することで、購買時の訴求ポイント（注視する頻度が高い位置、選択する時の視線の動き、注視する時間等）を解析したいが、計測機器を装着する従来の方式では収集できるデータ数に限りがある。

※アイトラッキング=ヒトの眼球運動を分析して視覚的注意等を明らかにする生体計測手法。



解決案

🍁**アイトラッキングデータ活用による品種開発と販売戦略**

アイトラッキングの活用として、装着方式ではなく設置方式（プライバシーを侵害しないよう個人を特定せずに売場で視線軌跡を計測）により消費者の購買行動の客観的データを収集し、新品種開発や販売戦略策定につなげたい。

担当者：研究戦略部・技術開発研究室・近藤貴士



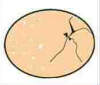
愛知県の
産地の現状

🌿国の目標では、有機農業の取組面積を2050年までに25%に拡大することとなっている。
一方、県内の有機水田面積は100ha前後(0.3%程度)で推移し、増加していない。



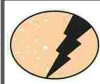
農総試での
関連研究成果

🌿環境に配慮した生産工程に関する表示である「環境アイコン」に関する、消費者の意識や波及効果について検討してきた。



解決したい
困りごと

🌿有機栽培等の「環境に配慮した米」は、消費者にとって安全であるという認識は高いが、環境保全に貢献しているという認識が低く付加価値に対する評価が十分ではない。
そのため、環境保全に貢献するというストーリーの構築と社会における価値観の共有が重要であるが、生産者にとってPR方法を構築するのは難しい。



解決案

🌿環境に配慮した生産工程であるのことのPR用アプリケーション開発

定点観測カメラ、ウェアラブルカメラ、ドローン等を用いて、農業者の栽培に対するこだわり、生産物の生育状況、周辺の豊かな自然環境等について発信するために、画像・映像の自動取得、撮影のポイントやコツの利用者への提案、映像コンテンツの自動作成が可能なアプリを開発する。

これにより、生産者が「環境に配慮した米」のブランド化を効果的・省力的に進めることができる。

担当者：研究戦略部・技術開発研究室・山本るみ子